

# 全柔連だより

題字/嘉納行光

●発行人/嘉納行光 ●編集/広報委員会 ●発行/財団法人全日本柔道連盟 (<http://www.judo.or.jp/>)

国際柔道連盟(IJF)は昨年10月、タイ・バンコクで開かれた理事会において、国際ランキングシステムと世界各地で開催されるグランプリシリーズを本年1月から導入することを決定し、直後に開かれた臨時総会でこれが承認された。同時に、IJF試合審判規定の一部も改正され、同様に本年1月1日から正式に施行されている。

これらの新たな試み、ルールを含め、日本から世界に広がった柔道は北京五輪を節目に、今また大きく変わってこうとしている。

## 変わりゆく『柔道』



写真提供:東京スポーツ新聞社

### ロンドン五輪に向け、新強化体制発足 全日本新監督に聞く

'00年シドニー五輪後から北京までの8年間、全日本男子を引っ張ってきた斉藤仁氏、'04年アテネ五輪から4年間、女子を率いてきた日蔭暢年氏に代わり、男子監督として篠原信一氏、女子監督として團田隆二氏が、新しく全日本監督に就任。

共に30代という若い体制がスタートした。まずは二人の監督に、どのような強化を図っていくのか、その抱負を伺った。



**絶対に金メダルを獲る！  
気持ちの強い選手を育てたい**

男子監督 ..... 篠原 信一氏

監督就任の話をいただいたときは正直、戸惑いました。しかし、吉村和郎強化委員長、斉藤仁前ヘッドコーチをはじめとした先生方の熱意、そして私自身全柔連の強化選手に入れていただき、強化してもらったことで今日の私がありますので、“少しでもお役に立つのであれば”と考え、お引き受けすることにしました。

強化は、私の個性を出しながら厳しく行いたいと考えています。具体的には、たとえば、稽古中のインナーの着用は減量のある選手以外、禁止しています。インナーは筋肉の

働きを助けるなどの目的があって作られているとは思いますが、実際の試合で着用することはできません。そのため、普段の練習から試合同様、着させないというわけです。

また、基本的なことですが、稽古が始まるときにテーピングを巻いたり、ストレッチを始めるといったことがないようにということもきつく言っています。

こうした指導を通じて育てたいのは、やはり気持ちの強い選手です。本当にオリンピックで勝ちたいなら、それ相応の稽古をしなければなりません。ただ出るだけでは話にならない。国内でいくら強くても、また外国人に強い選手であっても、気持ちのない選手は代表として使いません。実績よりも「絶対に金メダルを獲るんだ」と4年間頑張り抜き、“いざとなったら、こいつはやってくれるんじゃないか”という選手を私は使いたい。そんな強い気持ちを育てるのが日

↓(次頁へ)